**会　議　録**

|  |  |
| --- | --- |
| 会議の名称 | 令和5年度　第1回　那珂川市地域保健推進委員会 |
| 開催日時 | 令和5年6月1日（木）19：00～19：40 | 開催場所 | 保健センター2階健康増進室 |
| 出 席 者 | １．委員　有馬委員、北林委員、呉委員、関委員、戸田委員、園田委員、　　　　髙橋委員、川添委員、藤原委員、立川委員、２．執行機関（事務局）　村上課長、堺係長、森 |
| 配布資料 | 1. 健康日本21（第三次）について
2. 「健康づくり」に関するアンケート（案）
3. 計画策定年間スケジュール
 |
| 議題及び審議の内容**1．委嘱状交付、自己紹介****2．会長あいさつ****3．議題****１）次期国民健康づくり運動プラン　健康日本21（第三次）について**事務局5月17日に国から提供された資料を基に、内容を抜粋して説明する。資料3ページで、第2次の評価と課題について、健康寿命は着実に延伸しつつあるが、悪化または目標が未達成となっているものが4項目挙げられている。①メタボリックシンドロームの該当者及び予備軍の減少②適正体重のこどもの増加③睡眠による休養を十分とれていない者の割合の減少④生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合の減少これらをふまえ、今後検討すべき課題として、5つの項目が挙げられている。資料4ページでは、第3次プランの全体像として、「すべての国民が健やかで心豊かに生活できる持続可能な社会の実現」をビジョンに掲げ、第2次プランから引き続き「健康寿命の延伸と健康格差の縮小」を基本的な方向性として位置付けられている。新たな視点として、大きく「誰一人取り残さない健康づくり」と「より実効性を持つ取り組みの推進」の2つの項目があり、これらを実現するために、それぞれ3つずつ項目が示されている。その中でも、国としては、産官学を含めた多様な主体による健康づくり、ICTの利活用について、特に新たな取り組みとして力を入れていきたいということであった。資料7から8ページの「取り組み分野と領域」について、7ページの左側に掲載されてある生活習慣の改善の6つの項目については、今回の那珂川市の計画策定に係る市民アンケートの項目としても挙げているものである。資料10ページの第3次プランの計画期間は、今回より国の医療費適正化計画などの他の関連する計画と期間を合わせること、評価を行うためにはある程度の長期的な期間が必要であることから、令和6年度から17年度までの12年間を計画期間とされている。すべての目標について、国では、計画開始の6年後である令和11年度を目途に中間評価が行われ、計画開始の10年後の令和15年度を目途に最終評価が行われる予定となっている。地方自治体においても、国が示す中間評価および最終評価を受け、計画の見直しや、次期計画の策定を行っていく予定である。**２）本市計画策定に向けてのアンケート調査項目について**事務局前回からの変更点は、送付したアンケートの朱書き部分となっている。国や県の健康増進計画を参考に、本市においても追加したい項目について掲載した。会長　アンケートの内容について、意見、質問等はないか。委員　国の新しい指標として骨粗しょう症について加えられていたかと思うが、アンケートにも項目として加える予定はあるか。がん検診を受けているかとの設問があるので、その部分で触れてもよいのではと思った。事務局　アンケート項目として個別に「骨粗」というものは挙げていない。指標の個別の項目については、問11の健診の結果の活用のところに含まれると考えている。委員導入文に「（仮称）那珂川市地域保健計画」とあるが、問36には（仮称）の記載がないのは、何か意図があるのか。事務局計画の名称について、那珂川市は当初より「地域保健計画」としているが、国の法律や他自治体の名称の多くは「健康増進計画」という名称を使用している。市としては、「健康増進計画」という馴染みがある名称とした方が、計画の中身をイメージしやすいものになるのではと考え、名称の変更を検討していることから、導入文では（仮称）としている。　設問36については、これまでの計画を知っていたかという意味のため、「地域保健計画」としている。委員問11で言う「基本健診」は健康診断、生活習慣、血液検査とか身長、体重のことだと思っている。市の案内が「基本健診」プラス「がん検診」という案内になっているならいいが、案内の表記とアンケートの表記が違うと、「基本健診」が何の内容を表すか市民に分かりにくいのではないかと思う。市の案内に明記してあるなら問題はないと思うが、いかがか。事務局健診案内等の表記方法に関しては、改めて確認する。委員　最近は、「健康増進」より「健康づくり」という名称が使われるようになってきているように感じる。事務局　参考にさせていただく。委員　問6の身長体重のところに腹囲を入れると、メタボの診断になるのではと思った。アンケートの結果については、答えた人が分かるようにフィードバックされるものなのか。事務局　無作為抽出で無記名の調査となっているため、市も誰の回答かわからない状態となる。詳細な項目を一つずつ公表するのではなく、アンケートの結果を分析したものを計画に落とし込むことで公表する形となっている。委員　計画を公表するときは広報紙などに記載しているのか。事務局　計画ができたことを広報紙に掲載し、全文についてはホームページで公開している。また、パブリックコメントを実施し、市民の意見を伺う機会を設ける。委員　アンケートの回答率が過半数ちょっとで、回答数が541件で統計をとるのは厳しいのではないか。母数を増やした方がいい。　ホームページを見る人は少ないと思うので、市のラインや、無作為とは異なってくるが、今であれば商工会のプレミアム商品券の応募の機会にアンケートをとるなどすれば回答数が増えると思う。事務局　回答率を上げる必要性については、市としても感じている。委員　回答をしない方は回答をする人と比較すると、健康面においても差があるのではないかと思う。送付されてきたものをきちんと返す人の回答だけでなく、返さない人のことも分かるようになるといいと思う。事務局　無作為抽出で無記名の調査のため回答しなかった人を拾うことはできない。回答しない人の状況をつかむのは難しいが、回答率を少しでも上げる工夫として、「今アンケートを実施しているので、届いた方はぜひご協力お願いします」などのアナウンスはできるのでないかと思っている。　回答率が低いことは市としても大きな課題であると感じている。声掛けなど、できるところから検討していく。委員　アンケートを送る際の文書に、個人情報保護関係の文言を入れておいた方がいいと思う。事務局　目的以外に利用しない、名前が出ることはない、という内容を明記するように対応する。**３）今年度のスケジュールについて**事務局今後は、本日いただいた意見の内容を検討し、6月中に市民アンケートを発送する。アンケートの結果をもとに8月までに最初の素案①を作成し、次回委員会開催の9月下旬ごろまでに皆さまへ提示させていただく。その後、年末を目途に素案②を作成した後の1月に第3回委員会を開催し、2月にパブリックコメントを予定している。2月のパブコメを終えたら最終案の調整に入り、3月末の第4回委員会において、完成した計画を皆さまへ報告させていただく予定。**４．その他**特になし |